

広報



うらやす

主な内容

司書が選んだおすすめの本	2・3面
うらやすファミリー・サポート・センター会員募集	ほか 7面
市の新型コロナウイルス感染症関連情報	ほか 8面

発行/浦安市
 所在/〒279-8501 千葉県浦安市 猫実一丁目1番1号
 編集/企画部広聴広報課
 ☎047-351-1111(代表)
<https://www.city.urayasu.lg.jp>

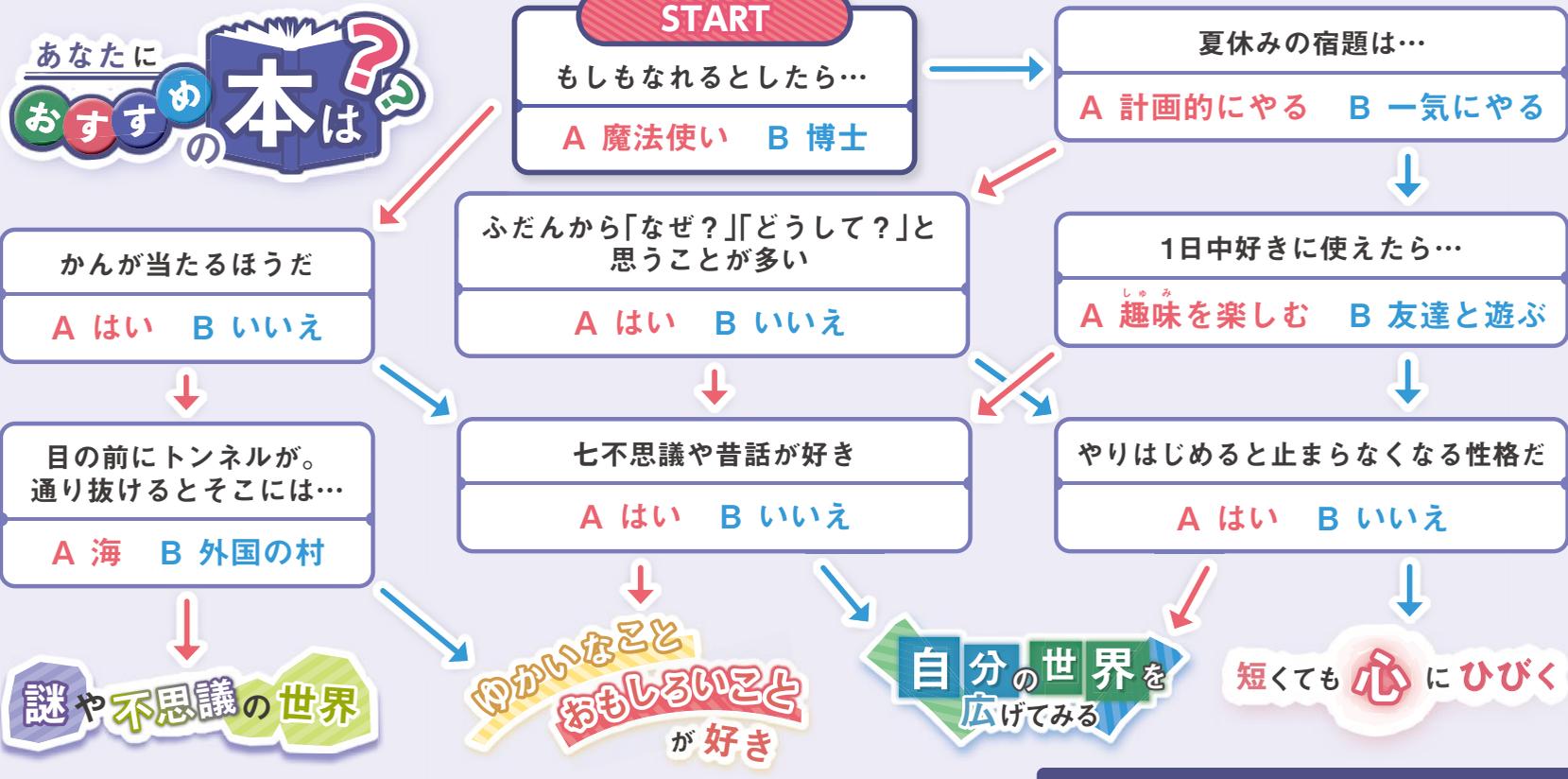
市の人口と世帯 人口=169,259人(683) 男=82,308人(272) 女=86,951人(411) 世帯数=82,656世帯(795) 令和4年3月末現在()は前月比

各記事に掲載しているIDを、市ホームページ上の「広報ページID検索」に入力すると、該当ページが出ます。これにより、記事を探す手間を省けます



友達との遊びやゲーム、勉強など、忙しい毎日を送る子どもたち。でも、たまには本を開いてみると、新しい世界が広がります。4月23日(土)から5月12日(木)はこどもの読書週間です。この機会に、お気に入りの1冊を見つけてみませんか。

あなたに おすすめの本は?



各カテゴリーのおすすめの本は2面へ

中央図書館の司書が選んだ おすすめの**本**

カテゴリごとのおすすめの本です。ほかに、図書館にはたくさん本があります。興味のある内容や、調べたいことを伝えて、どんな本があるのか探してもらっても構いません。身近な図書館を、ぜひ、利用してみてください。

問 中央図書館 ☎352・4646

自分の世界を広げてみる

海辺の宝もの

ヘレン・ブッシュ/作、鳥見真生/訳、あすなる書房

メアリーは父さんといっしょに、海辺で「変わり石」を見つけるのが好きでした。海の生き物がなぜきれいな石になったかはわかりませんが、珍しい形の石は高く売れるのです。やがてメアリーの見つけた石を求めて、村人や学者がやってくるようになります。世界初の女性化石採集者メアリー・アニングの物語。

エジプトのミイラ

アリキ/文・絵、神島統夫/訳、あすなる書房

古代エジプト人は人が死んでも魂はいつまでも生きていると考えていました。その魂が帰ってくるには体をそのまま残すことが必要でした。これがミイラの始まりです。ミイラの作り方を古代エジプト遺跡の絵画をもとに紹介しています。

世界あちこちゆかいな家めぐり

小松義夫/文・写真、福音館書店

屋根に目のある家や、地面の下にある家、移動できる組みたての家、泥でできた家。この本では、世界各地の家とそこに住む人々の暮らしを写真と文章で知ることができます。また、家の中の様子のイラストもあります。驚きにみちた家からは、人々の暮らしの工夫がわかります。自分の家と比べてみましょう。

謎や不思議の世界

シリーズ 少年弁護士セオの事件簿

ジョン・グリシャム/作、石崎洋司/訳、岩波書店

弁護士一家に生まれ、裁判の傍聴が大好きな中学生セオの住むまちで、殺人事件が発生しました。目撃者や物証はなく、あるのは被告人の状況証拠だけ。そんな時、セオは知人から重大な秘密を打ち明けられ、事件解決への糸口をつかみます。

シリーズ

ミス・ピアンカ くらやみ城の冒険

マージェリー・シャープ/作、渡辺茂男/訳、岩波書店

ミス・ピアンカは大使館で飼われている美しい白ねずみ。世界的なねずみの組織「囚人友の会」から依頼を受け、捕らわれた詩人を助けるため、家ねずみと海賊ねずみとともに、地の果てにあるくらやみ城へ向かいます。

大きなたまご

オリバー・バターワース/作、松岡享子/訳、岩波書店

ある朝、ネイトの家のめんどりがとても大きな卵を産みました。ときどきわくわくしながら待っていると、なんとトリケラトプスが卵から出てきました。米国中が大騒ぎ。しかも、ものすごいスピードで大きくなっていきます。

ゆかいなホームーくん

ロバート・マックロスキー/作、石井桃子/訳、岩波書店

ホームーくんは、米国のいなかまちに住む男の子。ある日、4人組の強盗に遭遇したホームーくんは、強盗をつかまえるため、ペットのスカンクを使った作戦を思いつきます。「ものすごい臭気事件」。ホームーくんのまわりでは、びっくりするような出来事がまきおこります。

フォードルおじさんといぬとねこ

ウスペンスキー/作、松谷さやか/訳、福音館書店

6歳なのにも自分でできる「フォードルおじさん」と呼ばれる男の子。家出して、言葉を話す犬や猫と田舎で暮らすことになりました。3人は宝を見つけ、雌牛や食物で走るトラクターなどをかうことにしますが、そのたびに大騒動になってしまいます。

ゆかいなこと おもしろいことが好き

くもりときどきミートボール

ジュディ・バレット/文、ロン・バレット/絵、青山南/訳、ほるぷ出版

カミカミゴックンのまちでは、1日に3回、空から食べ物降ってきます。人々はそれを食べて暮らしていましたが、ある日、そんな生活に変化が起こります。天候が悪化して、降ってくる物が大きく大量になったのです。巨大ホットケーキが学校を包み、トマトの竜巻がまちを襲います。

短くても心にひびく

グドーさんのおさんぽびより

たかどのほうこ/作、佐々木マキ/絵、福音館書店

グドーさんはフルトでアマリリスの花を咲かせたり、雪の日のかっこいい歩き方を思いつく愉快なおじさんです。仲良しのイサカワさん、キーコちゃんとも今日もお散歩にでかけます。3人組が起こす、ほのぼのとしたエピソードが面白い短編集です。

シリーズ 怪物の本

ルース・マニング＝サンダース/著、西本鶏介/訳、ブッキング

怪物というと、恐ろしいイメージがありますが、必ずしもそうとは限りません。人間を食べようとする怖い怪物、愛する人の幸福を願った優しい怪物、魔女に怪物の姿に変えられてしまった皇帝など、世界各地のさまざまな怪物のお話が12話入っています。

もしぼくが本だったら

ジョゼ・ジョルジェ・レトリア/文、アンドレ・レトリア/絵、宇野和美/訳、KTC中央出版

「もしぼくが本だったら『この本がわたしの人生を変えた』と誰かが言うのを聞いてみたい」「もしぼくが本だったら・・・」という同じフレーズが繰り返され、印象的なイラストが想像をかきたてます。1ページずつ、じっくり味わって読んでください。さて、もしあなたが本だったら？

自分だけの本の記録 読書通帳

市では、借りた本を記録できる読書通帳を市内在住の小・中学生に無料で配布しています。この通帳には、中央図書館・各分館で借りた本はもちろん、市立小・中学校の図書室で借りた本も記録できます。読書通帳への記録は、中央図書館・各分館に設置している読書通帳機でどうぞ。自分が読んだ本の記録を、形に残してみませんか。詳しくは、中央図書館へお問い合わせください。
※高校生以上の方には、1冊300円で販売



国際子どもの本の日 55周年

中央図書館では、4月27日(木)まで、「国際子どもの本の日」55周年の企画展示を行っています。4月は子どもと本をつなぐ活動が多く、関心が高まる時です。本を読む喜びを知るとともに、現在の不安定な世界情勢の中で生きる私たちにとって、子どもの本を通して国際理解を深める機会になります。ぜひ、図書館に来館してご覧ください。